

# 笑顔いっぱい

春号  
(第55号)

発行日/平成30年5月1日

発行・編集

福島生協病院広報委員会  
広島市西区福島町1丁目24番7号  
TEL082-292-3171(代)

ホームページアドレス

<http://www.hch.coop/fukushima/>

## 病院長あいさつと新入職員へはなむけのことば

福島生協病院病院長 北口 浩

2018年4月1日付けにて福島生協病院の院長を拝命致しました北口浩です。皆さまには平素より当院を大変お世話になっており、深謝致しております。

福島生協病院は1955年8月に診療所として開設され、その後、地域の皆さまと生協組合員に支えられて165床の病院になり、2015年9月に現在の位置に新築移転しました。当院の院長としては、初代の中本康雄院長、二代目の田坂正利院長、三代目の斎藤紀院長、四代目の田代忠晴院長の後を継ぎ、私で五代目となります。私は1985年に広島大学を卒業し、広島共立病院、国立がんセンター中央病院（現：国立がん研究センター中央病院）で研修させて頂き、1991年から当院に赴任し外科医としてこれまで勤務して参りました。

当院は一般急性期医療の機能を有しており、内科、循環器科、消化器科、外科、肛門科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、皮膚科、泌尿器科を標榜しております。各分野の医師がそれぞれ専門性を活かし、総合的な診療を提供することにより、地域のかかりつけ病院としての役割を担っています。また、高度急性期病院からの転院受入、地域開業医への紹介といった地域連携の要としての役割を担っています。さらには、在宅療養支援病院として在宅診療を行っており、地域医療にも力を入れています。そして、基幹型臨床研修指定病院や各学会の専門医及び認定医関連施設の指定を受けており、研修医、若手医師の育成にも力を注いでいます。

当院は生協組合員のみなさまの出資により成り立っています。全国組織である日本医療福祉生活協同組合連合会に加盟し、全国の医療生協とともに「医療福祉生協のいのちの章典」を前面に掲げた医療の実践に取り組んでいます。また、全日本民主医療機関連合会にも加盟し、「無差別・平等の医療と福祉の実現」のもと、だれもが経済的な理由で医療を受けられる機会を奪われぬよう、差額ベッド代（個室料）をいただいません。

当院の理念と基本方針についてご紹介しますと、

理念：私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

基本方針：

- ・インフォームド・コンセント（説明と意思決定）を重視し、信頼される医療を提供します。
- ・教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。
- ・地域の人々とともに、医療・福祉・介護のネットワークづくりをすすめます。

この理念と方針の下、今後も地域の皆様のお役に立っていく所存です。何卒よろしくお願い致します。

新入職員の皆さんへ

まずはご入職おめでとうございます。当院を選んで下さった皆さんは全て「困っている人の役に立とう」という、高い志を持って入職されてきた方々だと推察致します。どうかこの初心を忘れずに、地域の人々のために一緒に頑張ってください。よろしくお願い致します。



# 2018年度診療報酬改定の特徴

福島生協病院 事務次長 村田 良二

2年に1度の診療報酬改定の時期がやってきました。国のGDP比に占める社会保障費支出の割合は3年連続で減少しています。高齢化率を加味すれば、先進国の中で決して高いレベルとは言えない社会保障財政の緊縮政策が依然進められています。社会保障費は高齢化に伴う自然増を約1,340億円圧縮し、財政再建計画で「目安」とされた5,000億円以内に抑制。今回の診療報酬は実質マイナス改定となりました。今回の改定は「日本型少子高齢化社会の到来」「ケアニーズの変化と多様性」「技術革新と保健制度の調和」が検討された中身となりました。検討された具体的な中身は、以下の点が挙げられます（一部抜粋）。

- ① 7対1入院基本料病棟をはじめとした急性期～回復期入院医療体制のあり方（の見直し）。
- ② 生活視点の医療への導入、かかりつけ医機能の充実、在宅医療の推進。
- ③ 遠隔診療の推進。

一般的に急性期病院と言われる病院は、これまでは、入院している患者の数に対して看護師の数が多ければ高い医療機能を持っていると評価される仕組みでしたが、今後は急性の治療を必要とする一定数の患者が入院しているかどうかでその機能が評価されることとなります。具体的に言うと、患者7人に対して看護師1人がケアする体制を持っているかどうかで見ていたものが、厚労省の定める重症な状態にある患者や医療・看護を必要とする身体状態にある患者が15～30%の割合で入院しているかどうか、という見方になります。では、そのような急性の治療を必要とする身体状態にある入院患者の割合が少ないこれまでの急性期病院はどうなるのか。それらの病院は、病状の比較的落ち着いた患者の治療にあたる回復期病院としての役割を担う、ということになります。

高齢化が進む中、脳血管の疾患や転倒による骨折が増えてきますので、リハビリテーションがますます大切な領域となっていくこともあり、リハビリでは回復度合いを数字で測ることがさらに重視されます。リハビリで入院患者の身体状態を早く回復させ、早く自宅に帰られる支援を強めることも回復期病院に求められています。

病院も診療所・クリニックも「かかりつけ医」の役割を持つことが勧められています。具合が悪くなった時に軽症かどうかは自分では分からないと思うのですが、軽症の時は大病院を受診させない、馴染みの診療所・クリニックを受診するように勧めましょうということです。その他、在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリなど）を医療機関や介護事業所と連携を取って行えば、それぞれの報酬を高くするという内容も含まれています。遠隔診療は、医療のIT化導入のひとつです。遠隔診療を受けられる条件は高いのですが、自宅のテレビ電話で医師の診療を受けることも可能になりました。

今回の改定は、それぞれの病院が固有の役割を担うことと地域の開業医や介護事業所と一体となり患者ケアを行うということが、全体としてつながっています。患者の目で見ると大変すばらしい内容にも見えるのですが、注視したいのは社会保障費を切り捨てる政策により、国が負担する医療費をいかに減らすかという思想が出発点であるということです。病院の機能を急速に分けることで地域によっては近くに急性期の対応をしてくれる病院が無くなります。病院を減らす、早く退院してもらい出来るだけ自宅で療養してもらおう。そして受診機会を減らす。このようにいかに医療に掛からないようにするかという意図が含まれた内容がうかがえます。今後も患者の思いや医療・介護を行う現場の実態には遠い改定が続くものと考えられます。

# レーザー光凝固装置の更新について

福島生協病院 眼科科長 高松 倫也

2017年度の予算執行で、この2月に眼科のレーザー光凝固装置が更新されました。更新されたレーザー光凝固装置はLUMENIS（ルミナス）社製のVision One（ビジョンワン）マルチカラーレーザー光凝固装置です。

レーザー光凝固装置は糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固や部分光凝固、網膜静脈分枝閉塞症や網膜中心静脈閉塞症に対する光凝固、網膜動脈瘤破裂に対する光凝固、網膜剥離につながる網膜裂孔や網膜周辺部変性に対する光凝固、閉塞隅角緑内障に対する虹彩光凝固による虹彩切開など多彩な眼科疾患の治療に使用されます。

これまでの当科のレーザー光凝固装置もルミナス社製でしたが導入は十数年前の旧式で、すでにメーカーの部品の供給が終了しておりました。さらに、新しいレーザー光凝固装置は目的に応じて3種類の波長のレーザー光が選択でき、新たに、パターン照射という新しい照射機能が装備されており、より効率的な治療も可能になっています。



## 「訪問看護ステーションコープはつかいち」を開設しました。

広島中央保健生活協同組合 介護事業部事務長 田頭 嘉直



2018年4月1日、生協ひろしま大野事務所内に当生協4か所目となる訪問看護ステーションを開設しました。この事務所内には生協ひろしま介護サービス廿

日市（居宅介護支援・訪問介護）事業所があり、そこで2生協3事業所が同居して医療と介護のサービスを一体的に提供していくこととなります。

事務所レイアウトは同一フロアとし、顔の見える関係を進めていくことにこだわり、話し合ってきました。結果、しきりの柵は110センチしかなく、常に互いの状況や相談等が容易にできるオープンフロアとしました。このような同一フロアで別の法人が事業を行う取り組みは全国の生協間でも例のない画期的な取り組みです。

職員構成は看護師3名、理学療法士1名でスタートします。互いの強みを生かし、高めあいながら地域から必要とされるステーションとして実績を積み上げていきたいと思っております。

訪問エリアは、廿日市市の一部・大竹市（阿多田島を除く）です。詳しくは事業所までお問い合わせください。



## 新入職研修医自己紹介



初めまして！今年1月に入職致しました、研修医の小林春沙（こばやし はるさ）と申します。

出身は山口県柳井市で、他県とはいえ広島とはごく近いところに位置しますので、幼少より広島市内や厳島などには訪れる機会も多く、広島も故郷であると言っても差し支えない感じです。もちろん、応援している球団は、広島東洋カープです！（でもあまり詳しくはないのですが・・・！）

学生の頃は「人の役に立つ仕事がしたい」「子供に関わる仕事がしたい」「両親が医療職を勧めている」という3つの理由から小児科医を目指しておりましたが、ここ何年か家族の病気の看護に携わり、患者さん視点での医療はどういったものなのか、考えや見かたも変わりました。そういった経緯もあり、現在は内科医への関心が高くなっております。

現在、研修を始めて3か月ですが、未熟なのはご説明するまでもなく、また、先に述べました家庭の事情などで医療現場を離れていた期間が長いこともあって、なかなか苦勞を感じており、皆様にもご迷惑をおかけするのではと心配の尽きない毎日ではありますが、自分なりのペースで頑張りたいと思っております。

何卒宜しくお願い申し上げます。



はじめまして、初期研修医の寺元 庸（てらもと よう）と申します。将来的には地域医療に携わりたいと考え、福島生協病院での研修を選択いたしました。医療生協の職員として微力ながら、当院の医療活動に貢献できればと考えております。

出身は瀬戸内海の大崎上島です。今年3月に近畿大学を卒業、無事国家試験に合格して医籍登録も完了しました。小・中学校は大崎上島、高校は福山で暮らしていたので、久しぶりの帰郷となります。現在は広島のお雰囲気を懐かしく感じながら過ごしております。

趣味は読書（推理小説など）や音楽（クラシック音楽鑑賞、初級～中級のバイオリン演奏）などです。そろそろジョギングも再開したいと考えています。

初期研修に際しては、皆様のお手を煩わせることもあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。」

### ●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

#### 基本方針

1. インフォームド・コンセント(説明と意思決定)を重視し、信頼される医療を提供します。
2. 教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。
3. 地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

### 編集後記



暖かかったり寒かったり、体調管理を…と思っていた矢先に風邪を引いてしまいました。早く治して健康体で野球観戦に行きたい♪ (N) 暖かくなってきて、体を動かすのが気持ちいい季節となりました。少しずつ運動を始めていけたらと思っています。(I) 今年の冬は、特別寒かったですね。インフルエンザも大流行。私の席の前と両隣の人がインフルに罹患、家族にもかかった者が出て、自分にもと恐れていましたが、なんとか逃げきれました。(E) 夏の気配が近づいて来ましたね！暑さが身に堪える今日この頃ですが、元気に乗り越えたいと思っています。(A)